

七十七ビジネス大賞受賞

第26回(2023年度)

企業 インタビュー

Interview

株式会社宮城衛生環境公社

代表取締役 砂金 英輝 氏



会社概要

住 所：仙台市青葉区熊ヶ根字野川26-6

設 立：1982年

資 本 金：30百万円

事業内容：廃棄物処理業、清掃業

従業員数：178名

電 話：022 (393) 2216 (代表)

U R L：https://www.miyagi-ek.co.jp

「明るい衛生環境づくり」を企業理念とし、先駆的かつ積極的に脱炭素経営を推進、持続可能な経済・社会づくりの実現を目指し地域を牽引する企業

今回は「七十七ビジネス大賞」受賞企業の中から、株式会社宮城衛生環境公社を訪ねました。同社は、廃棄物の収集・運搬・処分および清掃業務を中心に、仙台市内の家庭ごみの収集・運搬のほか、自社の安定型最終処分場での廃棄物の処分、使用済み太陽光パネルの中間処理、浄化槽等の清掃・維持管理、上下水道施設の維持・排管清掃等を行っています。「明るい衛生環境づくり」（茶色を緑色へ）を経営理念とし、ESG、SDGsにも積極的に取り組んでいます。

同社の砂金社長に、事業内容や持続可能な経済・社会づくりの実現に対する思い等についてお伺いしました。

——七十七ビジネス大賞を受賞されたご感想をお願いします。

非常に歴史があり、なおかつ宮城県内の名だたる企業様が受賞されている賞を弊社が受賞することができまして、非常に嬉しく思っております。

七十七銀行宮城町支店の支店長から「七十七ビジネス大賞という支援事業があるので、よろしければ御社の取り組みを応募されてみませんか。」というお話をいただいて、今回初めて応募させていただきました。

受賞後は、社内外から色々なお祝いのメッセージをいただいたり、会う先々でお褒めの言葉を頂戴したり、会社全体の知名度も上がったと感じています。また、働いている社員のモチベーション向上にも繋がっており、受賞後の反響はとても良かったです。

静脈産業として日常をつくるために

——御社はどのような事業をされていますか。

弊社の主な事業の一つはごみの収集です。一般家庭ごみ、粗大ごみの収集と、事業者から出てくる事業ごみの収集、そして地域ごとに月2回、紙類の収集を行っています。家庭ごみの収集エリアについて仙台市は10地区に分けられており、弊社はそのうちの5つの地区を担当させていただいております。エリアとしては、青葉区全域、太白区の半分、それからここ旧宮城町・旧秋保町という地区になります。

また、産業廃棄物の収集・運搬・処分を行っています。弊社は最終処分場を所有しているので処分まで行うことができます。その他、上下水道施設や貯水槽、浄化槽（下水管が整備されていない場所で汚水を浄化するための槽）の清掃・修繕・維持管理、道路の維持管理（高速道路や一般道路のライン消し等）、冬場には道路の凍結防止や除雪作業を行っています。そして、2023年4月からは、使用済み太陽光パネルの中間処理も行っています。弊社の事業は皆様のライフラインに直結することばかりですが、あまり表に出てくることはなく、静脈産業と呼ばれる仕事を担っています。



家庭ごみ収集車両

——創業から今日に至るまでの経緯を教えてください。

創業は1982年です。弊社の現会長が旧宮城町の役場に勤めていた際、ごみの収集・焼却やし尿の処理、浄化槽の管理や冬場の除雪作業を役場に代わって民間に委託しようという話ができました。当時、役

場でこれらの業務を担当していた弊社会長に、時の町長をはじめ、役場幹部の方々から強い要請をいただき、設立したのが弊社の始まりです。弊社の事業はどうしても好き好んでやりたがる仕事ではないので、当時は人集めに大変苦労したと聞いています。ただ、近隣の地元の方々に助けられて何とか人を採用することができ、今日まで会社が続けられています。ごみを収集するエリアが広がるなど事業規模は拡大していますが、昔と今、やっている事業内容は大きく変わっておりません。同じことを愚直にずっと40年以上続けています。



本社

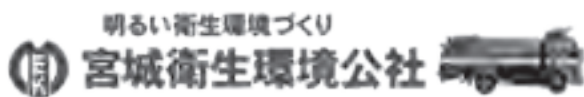
——社名の由来について教えてください。

会社形態は株式会社なのですが、社名に「公社」という言葉が付いています。公社とは公共のための企業等に付ける名前です。これは弊社設立当時、旧宮城町の町長が後押ししてくださり、公社という肩書を付けることができました。そして、社名の中の「宮城」は宮城県の宮城ではなく旧宮城町の宮城です。創業以来私たちを支えてくれた地域の方々への感謝の精神と、地域に対する貢献の気持ちを持ち続けたいという思いが込められています。そして「衛生環境」には、衛生的な環境をつくるといった意味が込められています。

——企業理念について教えてください。

弊社は、“明るい衛生環境づくり（茶色を緑色へ）”という企業理念を掲げております。企業理念というより基本方針に近いです。「明るい衛生環境」というものは一人ひとりの生活環境を衛生的に維

持・清掃する。それから、暗いイメージの場所を綺麗に明るくする。その結果一人ひとりの心が明るくなり、生活環境の美化に貢献する。そして、「明るい衛生環境づくり」を通じて心を笑顔に、つまり、みんなが笑顔になれるように貢献するという事です。これらを実現していく為に、「高い技術と信頼感」によって明るい衛生環境を構築しますということの方針として掲げています。その為に、常に綺麗な車両を維持し、気持ちの良い身だしなみを実践して挨拶（明るく正しい対応マナーの励行）をするという、人としてまずきちんとしなさいということ創業以来常に伝えていきます。



社名ロゴとごみ収集車

企業理念を掲げたのは私ではなく、創業者である現会長です。1982年の創業当時、弊社は浄化槽の管理や、し尿の処理、ごみの収集・焼却など、綺麗ではない仕事からスタートしました。ですから、「綺麗ではない」というイメージを払拭することが一番重視され、企業理念が誕生しました。

正面を向いて正々堂々と仕事できることが大事だと思います。創業当時、弊社で働いていた社員は、ごみ収集という仕事は恥ずかしいとかちょっと知り合いに会うと顔を隠すといったことがあったそうです。ですから、そうではなく正々堂々と、顔を見て自分がやっている仕事や会社名を言えるような、そういう会社になりたいと考えて日々取り組んでいます。

先駆者としての取り組み

——これまで事業を行う中で苦勞されたことや印象に残っている出来事がありますか。

先代の現会長から聞いた話になりますが、ごみの収集エリアが1つ増えると収集を行う車両を新たに準備しなくてははいけません。創業当時、人集めに苦勞したとお話ししましたが、車両を集めることにも苦勞したそうです。資金的な面でも大変ですが、収

集車両として役場と契約する為には、車両の名義が弊社の社名である必要があり、リース車両等を利用することはできませんでした。とはいえ、収集車は架装車両になるので、車の製造から納期までに相当の時間を要し、とても苦勞したと聞いていました。

印象に残っていることとして、非常に嬉しかった出来事があります。それは、地元の方々から温かい励ましの言葉や応援を頂いたことです。例えば、ごみを収集している時に「今日も1日頑張ってください。」とか「今日は暑い日だからこれを飲んで頑張ってくださいね。」等と言ってくれたり、最近ですと、コロナ禍に毎日集積所に励ましの手紙が置いてあったり、子供さんから感謝状を頂くこともありました。弊社の事業が地元の方々の生活環境整備に貢献できていると改めて感じる事ができました。



感謝状

——脱炭素化に向けた取り組みや環境保全に関する取り組みについて教えてください。

私は2018年の12月に入社し、2022年4月に代表取締役役に就任しました。当時の経営基盤は非常に盤石な状態で、創業者からは既存の事業に対して何かをしたり、新しいことをしたりするのではなく、とにかく人を見てほしいと言われて来ました。ですから、私にできることを考えました。今となっては「SDGs」は当たり前ですが、5、6年前まではSDGsについて何も分からない状態でした。分からないけれど、なんとなく今後世の中はこうならなくてははいけないのだろうか、まして、私どもが行っ

ている事業柄、必ずSDGsや脱炭素への取り組みが必要になる時が来るだろうと、ただの私の直感ですが思っていました。経営基盤が盤石だったということもありますが、脱炭素経営というものを経営方針の中に取り入れて、そこからスタートさせようと考えました。ただ、取り組もうと意気込んだものの、何をしたら良いのか分かりませんでした。何がSDGsなのか、何が脱炭素に繋がるのか分からないんです。ですから、色々なところに顔を出しました。環境省に電話してみたり、宮城県や仙台市をはじめ、色々な場所に行ってみたりしました。その時に、「再生可能エネルギー」というエネルギーを知りました。しかし、またしても再生可能エネルギーとは何だろうか、何かでエネルギーをつくるものなのかそんなレベルの知識しかありませんでした。そういった経緯の中で、今度は再エネ100宣言 RE Actionという活動を見つけました。2019年にこの活動が始まり、すぐに事務局へ電話をして参加表明について伺いました。廃棄物を扱っている会社のイメージが世間的に良くないということもあり、このような会社でも参加して良いのか、何度も確認をしてから同年11月に参加を表明しました。



様々な社会課題解決に向けた取り組み

——再エネ100宣言 RE Actionの目標達成に向けた活動内容について教えてください。

当初は「再エネ100宣言 RE Action」を宣言したものの、正直言って何をしたいか分からない状況でした。そこで比較的取り組み始めやすいというこ

ともあり、まず自社に太陽光パネルを設置して発電した電力を自家消費するというアクションを起こしました。弊社がある場所は自然豊かなところですので、隣の敷地を取得し太陽光パネルを設置してみると、弊社で使用している電力の約30%を賄うことができました。残りの足りない電力はJ-クレジット制度を活用し、宮城県産由来の太陽光電力を利用することで、再エネ100%を実現することができました。また、再エネ100宣言 RE Actionをはじめ、SDGsや脱炭素に関する内容を社内に周知させる為に、「宮環脱炭素プロジェクト」という社内プロジェクトを2020年10月に立ち上げて社内外に発信しています。その他、朝礼など機を見てSDGsや地球温暖化のことを話したり、社内掲示板を使ったりして社員に周知しました。

そうして、再エネ100%を実現し現在は地産地消の電力を東北電力様から購入させていただくことで、全ての施設で再エネ100%を実現しています。

——次世代バイオディーゼル燃料「サステオ」を導入するきっかけと経緯について教えてください。

弊社は2022年にSBT（中小企業版）(*)の認証を取得しました。これにより、自社の温室効果ガス排出に関する課題を強く意識するようになったことが次世代バイオディーゼル燃料導入のきっかけです。（*SBT：Science Based Targets. パリ協定が求める水準と整合した5～10年先を目標年として企業が設定する温室効果ガス排出削減目標）

弊社が排出する温室効果ガスは圧倒的にごみの収集車両からの排出量が多く、この現状を打破する為に、収集車両に運行システムタブレット端末を導入し、収集ルート最適化による業務効率向上や消費燃料の低減等に取り組んでいました。しかし車両調達の面においては、市場にEV車両やHV車両があるものの、弊社が事業で使用する収集車両は走行距離や積載量等の点から調達が叶わずにありました。

こうした経緯の中、微細藻類の研究開発等を行っている(株)ユグレナ社様から「サステオ」という次世代バイオディーゼル燃料が発売され、供給を開始

できるという情報を得ました。サステオは既存車両に軽油の代わりとして使用できる画期的な燃料である一方、初めての取り組みであった為、ごみの収集途中でエンジントラブルが発生し作業が中断してしまう場合のリスクが懸念点でした。また、サステオを使用した車両（家庭ごみ収集車）の公道走行は東北地方で初の取り組みであったこともあり、当面1台での運行として慎重に使用を開始しているところです。

地域の衛生環境づくりへの貢献

—使用済み太陽光パネルリサイクル施設「エコロジーセンター愛子」を設立された理由を教えてください。

弊社で太陽光パネルを設置して自家消費をし始めた際、この太陽光パネルが劣化して発電しなくなってきたらどう処理するのかと思ったことがありました。以前、「これからは太陽光パネルもリサイクルしなくてはいけない時代が来る」と耳にしていたこともあり、身近な疑問になりました。結果、当時の処理方法は埋め立てでした。弊社の太陽光パネルはそこまで大きくありませんが、メガソーラーという山を切り開いて設置する大きな太陽光パネルをどんだん土の中に埋めていったら、日本中が大変なことになってしまうと思いました。廃棄物を扱っている企業として、埋め立て以外の方法で処理できるような社会課題解決でもある資源循環推進をテーマに、太陽光パネル中間処理施設「エコロジーセンター愛子」を建設・稼働させました。



エコロジーセンター愛子の外観（上）
同施設太陽光パネル（下）

自社に太陽光パネルを設置したことにより喫緊の課題が見え、いち早くリサイクル事業に取り組むことができました。全国に太陽光パネルの処理ができる会社は20社程あるのですが、この中には、完全に処理できる処理場もあれば、ガラス部分だけを破碎する処理場もあり、全てまとめて20社程です。弊社は太陽光パネルのほぼ完全なリサイクルが可能です。処理施設に持ち込まれた太陽光パネルを分解する為に、周りについているアルミのフレームを外して、パネル表面のガラスを破碎します。パネル表面のガラスを取り除くと、バックシートという発電シートが残るので、破碎するかそのまま売却をします。つまり、弊社が実際に処分するものはガラスが破碎されたパネルの一部だけということです。大きなパネル1枚が、周りについていた4本のフレームと細かなガラスのみになります。リサイクル率93%のほぼ完全なリサイクルを可能とする施設は全国的に数える程しかありません。



太陽光パネル表面のガラスを粉碎し取り除く作業

最初はこうなるのではないかと直感で始めたことですが、再エネ100%実現の為に自分にできることはなんだろうと考え、太陽光パネルで自家発電・自家消費に取り組みました。これは誰でも発想できることです。ただ、頭の中で思い描いたことを実際に実行したから次が見えたのです。取り組んでみて、次は何だろうと課題解決をどんだんしていった結果、今に至っただけです。ですから周囲からは「凄いです。」等と言っただけですが、私は凄いことも難しいこともやったとは思ってなくて、誰でも出来ることをただ実行しただけなのです。よく

「費用対効果はどうか？」という方がいますが、それを言ってしまうと多分このような課題解決は前に進みません。ですから私は費用対効果を考えるよりも次世代の為に取組まなければならない未来投資と考えています。



自社の環境課題解決への取り組み

——今後の展望について教えてください。

恐らく廃棄物そのものの量は少しずつ少なくなっていくと思います。廃棄物には様々な物がありますが、弊社がメインで行っている家庭ごみの収集量については新しくできた団地で人口増加により、ごみの量が増えた地域もありますが、全体的には人口減少に伴い、少しずつ減ってきているという状況です。他方で、今設置されている太陽光パネルはこれから耐用年数を過ぎれば廃棄物として増えていくことが予想されます。これから環境課題は市場として大きくなっていくので、取りこぼしなく事業として成り立たせていくことが一番なのかなと思っています。今後、例えば市場の中で脱炭素化といった取り組みを行っている会社と行っていない会社でふるいにかげられる時が来ると思います。そうなった時、優位性を持って事業にも取り組めると思うので、市場が少しずつ縮小していても事業の方は拡大できると考えています。

弊社の残りの課題は車両から排出される温室効果ガスをいかに削減していくかです。国の機関や車両メーカー、架装するワゴンメーカー等と方向性を固めながら準備をしています。

また「ESD（持続可能な開発のための教育）」と

いう言葉があるのですが、今後の展開として環境教育といったところにも繋げていきたいと思っています。「小学生のためのお仕事ノート」という仙台市教育委員会後援の、仙台市内全小学校3・4年生に配布された冊子があります。今回このノートに弊社は廃棄物処理・リサイクルの企業事例として掲載されているのですが、サーキュラーエコノミー（循環経済）とか循環型社会といったことを早くから子供さん達に覚えてもらえると未来に繋がっていくと思います。

——会社を経営する上で大切だと思う事、アドバイス等ありましたら教えてください。

私自身、サラリーマンとして金融の仕事をしていたので、もともとの経営者ではありません。弊社に来てから5年位しか経っていないのですが、創業者の意向を引き継ぎながら、愚直にやり続けたことを私が受けて、少し今の流れをプラスして付け加えただけです。結局は人との出会いの中で自分自身が磨かれて成長しています。私の中では、やはり人との出会いが一番大事なことだと思っています。縁尋機妙 多逢聖因（えんじんきみょう たほうしょういん）という言葉がありまして、良い縁というのはどんどん続いていき、自分自身も成長していくということです。人が成長しなければ会社も成長しないので一番大事なことだと私は思っています。



インタビューにご協力いただきありがとうございました。貴社の今後ますますの御発展をお祈り申し上げます。

(2024.4.19取材)